

【2022 年度 終了レポート奨学生の声】

奨学生 A さん

・今回、奨学金をいただくことができたおかげで、無事に大学を卒業することが出来ました。そのためバイトを無理して入れることなく、練習時間を確保することができ、コンクールや受験に余裕を持って準備することが出来ました。私も将来、金銭的に厳しく、音楽に触れる機会が少ない子どもたちのサポートができるような活動をしたいと強く感じました。

奨学生 B さん

・今年度、藤澤記念財団の奨学生としてご支援いただき、本当にありがとうございます。

おかげさまで学生生活最後の年として、後悔なく様々なことに取り組むことが出来ました。修了時には、首席として賞を受賞致しました。コンクールにおいても、第2位や最優秀賞などを頂き、受賞者演奏会では憧れていたホールで演奏することが出来ました。

このような嬉しい報告が出来たのも、貴財団にご支援いただいて十分に練習や勉学に励む時間を確保することが出来たからです。

まだまだ未熟者ですが、私も後進の音楽家を支援できるように、また社会に貢献していきたいです。

奨学生 C さん

・大学から初めて藤澤記念財団のお話をいただいたときに、このような形の奨学金があることを知りました。大学からの推薦、面接をして奨学生になれたことに驚きもありつつ、同時に感謝の気持ちを抱きました。我が家は、家計に余裕があるわけでは無い為、学費や大きな必要経費をどのようにしていくかを両親と話す機会が多く、今回の受給させて頂いた奨学金のおかげで上手くいきました。藤澤記念財団様と縁があったことに両親も感謝を度々述べていました。奨学金という名前はありますが、お金を頂いて私の学生生活を支援して頂いたということを忘れずに今後の生活・表現者を目指すための活動を行っていきたいと思います。

奨学生Dさん

・一年間奨学金を給付してくださりありがとうございました。中学生の時に父を亡くした時は、教師という夢を叶えられないと思っていましたが、大学まで進学ができ、無事卒業が出来たことをとても嬉しく思っています。

春から地元の市町村の小学校に勤務が決まりました。教師頑張ります！

奨学生Eさん

・この度は奨学生に採用して頂きありがとうございます。奨学金のおかげで、学業に専念することができ、また大きなコンクールにも挑戦することが出来ました。

楽器の修理や備品の購入ができたことで、練習の効率も上がり、演奏に大きく影響しました。学生の間にもっと勉学に励み、沢山の人とつながり多くの経験を積んでいきたいです。社会人になった際には、音楽の魅力をより多くの人に伝え、クラシック（歴史）を未来へ繋いでいく人間になりたいです。